

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2005.11.15

VOL. 42

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒111-0021東京都台東区日本堤1-25-11
山谷労働者福祉会館気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-3373-9878
<http://www.tokyohomeless.com>

地域生活移行支援事業の発展形態はいかなるものとなるのか？

笠井和明

混迷を極めているのは行政サイドである。

華々しくデビューさせた地域生活移行支援事業が予想を遥かに超え好評かつ成功裏に進行している。この種の事業に成功体験を持たない都区はそれが故に戸惑い、右を向いたり左を見たり、果て又上を眺めたりうつむいたり視線がまったく定まらない。さながらパンドラの箱を空けてしまった者の悩みの体である。

俄然、当事者サイドからの期待感が高まる。もちろんその全てではないものの、ニーズとして脈々としてあった「屋根と仕事」が比較的安易に手に入るのであれば、それに期待しない訳がない。半年後、2年後にどうなるのかと云う莫とした不安よりも、



越年用食材を求め今年も長野県上山田で援農

目の前にチャンスがあればそれを自らの手で獲得しようとする貪欲さや必死さを否定できる者など誰もいない。事実、施策上の不安を煽り「見直し」もしくは「中止」を迫った支

援団体の手法は多数の仲間から支持を得られず運動としては破綻した。云うなれば路上の感性がまるでない書生の手法でしかなかったのである。

多数の当事者が動いた。これは事業の成功を担保するものではあったが、逆にこの事によって行政内部のセクション内の力関係もまた動き始めた。それぞれの利害、思惑が複雑にからみ当然ながら一枚岩とは云えないいつもながらの百花繚乱である。建設行政と福祉行政の確執、福祉行政内での東京都と特別区の確執、特別区行政内でも公園行政と福祉行政のこれまた確執。「都区共同事業」「総合的対策」の実態とはかつてから繰り返されてきた内部抗争の歴史であるが、それが地域生活移行支援事業の成功により拍車が一層かかってしまったようである。

そして、それを更に混乱させる自立支援事業の入所率60%前後の慢性的な非活用状態、生活保護の自立支援プログラム導入など厚労省主導の「福祉改革」の先行き不安（三位一体改革問題も含め）、他都道府県に遅れまじと何の戦略もなく作られただけの東京ホームレス就業支援事業推進協議会の発足、厚生施設や保護施設のみならず公園管理にまでも踏み込まれた指定管理者制度の導入等、波乱要因がぞろぞろと出る中、どのセクションもこれらを交通整理できなくなってしまった。

そんな中、マスコミは「都内のホームレスが減った」と大本営発表を真に受け、失業率改善と相俟って「ホームレス問題」は猟奇的な問題に押しやられ、社会問題の流行りは「ニート問題」とスタンスを移しつつある。

「転換点」「量から質」と言う言葉が一定の社会問題の成熟時にはよく云われるのであるが、こと東京においてはそう云う整理や議論はあまりなされず、皆頭をかかえ成り行きをただ見つめているだけである。円環状の発想の中に引きこもっているだけでも云えよう。

この春、連絡会が東京都に提出した「要望書」の議論はこんな混迷の中、どうやらまともに議論もされず、また来年度以降も地域生活移行支援事業は何らかの形で継続されるようではあるが、(量的、質的に)当事者からのニーズに充分応えられない中途半端な形で進行しそうな気配である。

せっかくの事業もすでに息切れを始めている。優良物件を一気に確保しすぎた影響で希望するアパート物件が出ない。基金事業廃止が前提で作られた筈の臨時就労の計画性がなく、これまた希望する量が出ないと、事業の根幹が揺らぐ青色吐息状態が、代々木組後半、上野組では顕著になりつつある。たとえこれを何とか乗り切ったとしても、戸山、中央組の二年後更新問題(一定の条件下で更新をするとの方針は既に決定している)が間近に迫り、ほとんど何も手付かずの第4ステップ課題が殺到する事態となる。既に入居した人々のフォローとこれから入居したいとする人々の支援と云う二極面を同時に解決できる仕組みが果たしてどこまで可能か?来年度から導入される予定の5ブロックでの「巡回相談センター」なるものが、未だ全貌を示されていない事からも、事はそう簡単には進まないであろう。都建設局は公園残留組への再実施を求め、特別区は区立公園での実施を求め、運動団体(と云っても連絡会



夏まつり。仲間の共同作業で800食のお弁当作り

グループのみであるが)は駅周辺での実施を求め、「広域的、重点的」の意味合いがそれぞれ違ったまま進むとすればこれまた混乱必至である。また、「55歳以上、路上歴1年」などと云う

訳の分らぬ制限をつけたとすればこれまた大混乱である。そして最大の問題は、自立支援システムの中にその機能の一部を導入しようとする場合、そもそもの自立支援システムの大変革なくして不可能であるにもかかわらず、金属疲労感の漂う自立支援システムを変えずに導入しようとしている点である。都内最大のキャパを持つ緊急一時保護センター大田寮を来年末までに閉所し全体のキャパを縮小するのであれば緊急センターでの機能強化の自由度は自ずから狭まる。恐らくそんな事など考えずに、また当事者のニーズも無視し、机上の論理だけで組み立てる事業継続ほど不安定なものはない。事業継続と云われても素直に喜べないのが実情である。

何度でも言おう。「屋根と仕事」につながる本格的な施策は今始まったばかりである。この10年来、都区はやれば出来る事をやらずに放置して来ただけの話しであり、この事業が自立支援事業に加わる事は後退や混乱であってはならず、一気に呵成に安定軌道させるためのものでなくてはならない。たかが千名程度減少したからとぬか喜びしている場合か。この「成果」が政策のせいならば、今迄が失政の連続であったと認めているだけの事である。ならば計画的にかつ大胆にやり続けるしか他の選択肢はないのである。

成功体験を何故「コツが飲み込めた」と考えないのであろうか?成功体験を何故ポジティブに総括しないのであろうか?いままで異端視していた人々に歓迎されると何故身を引くのであろうか?何故これこそ社会福祉の王道だと胸を張れないのだろうか?まったく不可思議としか云いようがない。

決定的な行政不信感を植え付けた96年1.24事件から10年。挽回のチャンスが今ようやく訪れたと云うのに、何もせず手をこまねいている都区の姿はこっけいですらある。



夏まつりは600名もの仲間が集まり大成功！

新宿連絡会 やねの会

8月13日、14日、新宿中央公園にて第12回新宿夏まつりが開催されました。

今年では東京都が昨年実施した「地域生活移行支援事業」で約420名の新宿の仲間がアパートへの完全移行を済ませた後の初の夏まつり。そして例年利用している中央公園「ちびっこ広場」が工事中のため「水の広場」に本祭を移しての初のまつり。「人数が減ったのに広い会場を借りて」との声もありましたが、それはまったくの杞憂。新宿はいつまで起っても新宿で、予想を超える600名の仲間が集まり、新宿の仲間の団結ここに在りの姿を都庁や世間に見せつけました。

13日は前夜祭。この一年路上や病院、アパート等で亡くなった新宿の仲間の追悼会。奇しくも参加者一人ひとりが焼香を終えた時、突然の雷雨。「ありがとう」の合図か、それとも「もっとしっかりやれ」の激励か、ここに居た仲間の顔をぐしょ濡れで思い浮かべると、嘘のように雨が上がり、酒を振るまいカラオケ大会に突入。笑いあり、踊りあり、そうめんもありで前夜祭の夜は過ぎて行きました。

深夜から再び雨。雨を呼び込む夏まつりは今年も健在でしたが、14日早朝には止み「水の広場」に会場が移動。

正午から、青空床屋、履歴書写真撮影会、青空医療相談会、古着の提供、かき氷大会、ポップコーン大会、延長戦のカラオケ大会に続々集まる仲間が顔を覗かせる。野宿の仲間、生活保護を取った仲間、アパートに移行した仲間。「おうお前生きてたのかよ?」「元気でやってるか?」そんな声があちらこちらのコーナーで飛び交う。

3時から恒例のゲーム大会。今年の景品はお風

呂セットの他にビール券やアルファ米と豪華絢爛のため、輪投げやダーツ、パン食い競争、すいか割りに炎天下の中、多くの仲間が参加、一喜一憂を繰り返す。

もちろん、それと同時に裏方大部隊の炊き出し班は野菜を切り、肉を切りと、特製弁当の作成に大わらわ。今年は長野県千曲市大わらじ委員会の方と仲間と一緒に掘ったじゃがいもで、肉じゃが弁当。

夕方からのビンゴ大会の後、特製弁当が一人ひとりに配られ、夏の恒例夏まつりコンサートが開始。予定していたクーベさんが突然の病気で急きょキャンセルとなったコンサート。それでも沖繩三線奏者、谷藤律子さんとアイヌ音楽の奏者が快く参加を引き受けて下さり、感謝感激、そして新宿音楽企画連続出演記録を持つ五十嵐正史とソウルブラザーズの登場。五十嵐さんの熱い歌声に声援が飛び、仲間や支援者がいつの間にか踊り出す。アンコールを二曲もこなして下さり、楽しい楽しいコンサートでした。

最後はマツケンサンバも飛び出した盆踊りだしめ、熱い夏祭りは成功裏に終了しました。

ご協力下さったすべての皆様に感謝！新宿はまだまだやります！



新宿連絡会

2005年7月～10月会計報告

連絡会活動への物品カンパ、現金カンパありがとうございました。引き続き越冬活動の資金、物資カンパを宜しくお願い致します。

【カンパ先】郵便振替口座
00170-1-723682「新宿連絡会」

収入)		支出)	
炊出部門寄付	79,870	炊出し事業費	147,487
夏まつり部門寄付	19,000	バトロール事業費	10,460
通信部門寄付	17,000	その他の活動費	23,743
その他寄付	104,200	自立支援事業費	47,090
前期繰越金	477,249	教宣活動事業費	201,193
借入金	104,129	事務費	11,548
		文化娯楽事業費	329,097
		池袋関連事業費	28,000
		雑費	2830
		次期繰越金	0
合計)	801,448	合計)	801,448

2005

~

2006

冬

守れ！いのち！

第12次新宿越年越冬闘争

2005年12月29日（木）～2006年1月4日（水）

<ところ> 新宿中央公園ポケットパーク

越冬闘争資金カンパ
毛布、冬物衣類（男物）
ホカロン、医薬品
募集中!!

越冬ボランティア募集!

新宿炊出し（準備・片付け）

毎週日曜 午後6時より7時半
越年期間 毎日 午前11時集合
ところ 新宿中央公園

医療相談会

12月11日 25日
ところ 新宿中央公園
越年期間 連日24時間体制
12月11日 午前10時より正午
ところ 戸山公園

パトロール（夜回り）

新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～
戸山公園 毎水曜 午後6時～

越年期間 毎日 午後6時集合

*お問い合わせ先

090-3818-3450（笠井）もしくは、
メールshinjuku@tokyohomeless.com